

# 茨木市立太田中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- |            |             |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと      | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと      | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項      | 概ね良好な結果であった |

#### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった

#### (その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 4-①
- ・もっとも正答率の低かった設問 3 四
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3 四
- ・もっとも無解答率の低かった設問 1 一二、3 一二

#### 分析

評価の観点別にみると、読む能力が全国、大阪府平均より大きく上回り、話す・聞く能力が下回る結果となった。また、問題形式別にみると、記述式の平均正答率が全国より下回っており、「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、そのような接し方をどう思うかを書く問題」や、「意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く問題」、「事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く」などの自分の意見をまとめて答える問題については、無解答が多く、自分の考えをまとめて伝えることや、文章にすることが苦手な生徒が多いことが分かった。

## 〇●数学●〇

### (領域ごと)

- |         |             |
|---------|-------------|
| ① 数と式   | 概ね良好な結果であった |
| ② 図形    | 概ね良好な結果であった |
| ③ 関数    | 概ね良好な結果であった |
| ④ 資料の活用 | 概ね良好な結果であった |

### (問題形式)

- |       |               |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題の残る結果となった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった   |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった   |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 7(1)
- ・もっとも正答率の低かった設問 8(3)
- ・もっとも無解答率の高かった設問 8(3)
- ・もっとも無解答率の低かった設問 1.3.5.8(2)

### 分析

評価の観点別にみると、数学的な技能が全国、大阪府平均より上回っている結果となっており、数と式などの基礎的な問題の正答率が高いことが分かった。

一方で、記述式や選択式の問題については大阪府の平均、全国より正答率が下回っており、「四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する」「与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題」「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する問題など、**グラフや表などを活用する問題や、なぜそうなるかの説明を行う問題、証明の問題**では、無解答が多い結果となっていた。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

国語・数学とも、H31年度と比較した際に、平均正答率が減少傾向にある。また、無解答率は増加傾向にあるものの、全国比でみると、解答率は多くなっている。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

#### 【国語】

H31年度と比較し、学力高位層、学力低位層ともに増加し、EP層も増加している。

#### 【数学】

H31年度と比較し、学力高位層は横ばい、学力低位層は減少しており、EP層も減少している。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

今回の全国学力・学習状況調査の結果から、自分の考えをまとめて伝えることや、文章にすることが苦手な生徒が多くいることがわかる。これは、生徒アンケート中から「自分の考えを深め、広めたりすることができるか」という問いに対して「あてはまる」と答えた人が、全国や大阪府に比べ少なく、同じような「総合の時間などで自分の課題を立てて、情報を集め整理し、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいますか」という問いに対しても、全国や大阪府に比べて、「あてはまる」と答えた人が少ないことが分かった。

コロナ禍の中で、授業中でのペアワークやグループ活動が減っている中、自分の意見を主張する場が少なくなっていることも、自分の考えをまとめて伝えるのが苦手な生徒が増えてきている理由の一つだと考えられる。

グループワークが制限されている中で、どのように子どもたちの考えを深めさせ、意見を発信させていく力を身につけていくのが課題である。授業でICTを活用した発表の場や、自分の考えをアウトプットする場面をどのように設定していくかを検討し、少しでも授業で自分の考えを表現する時間を確保していく。